

第239回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 令和4年9月21日（水）午後1時30分

閉会 令和4年9月21日（水）午後2時31分

2 会議の場所

一関市役所大会議室A

3 出席者

教育長 小菅正晴

委員 千葉和夫

委員 佐藤一伯

委員 伊藤一志

委員 桂島加奈子

4 会議に出席した関係者及び職員

教育部長	及川和也
一関図書館長	中川文志
教育部次長兼学校教育課長	菅原正樹
教育総務課長	遠藤実
文化財課長兼骨寺荘園室長	氏家克典
一関市博物館次長	佐々木修路
いきがづくり課長	伊藤信子
教育総務課庶務係長	細川圭子（記録）

5 報告

- (1) 一関市議会定例会第98回9月通常会議（一般質問）の状況について
- (2) 行事報告及び行事予定について

6 その他

- (1) 令和4年度学校教育行政の重点について（キャリア教育）
- (2) その他

7 会議の議事

○教育長 ただいまから第239回一関市教育委員会定例会を始めます。

報告(1) 一関市議会定例会第98回9月通常会議（一般質問）の状況について

○教育長 2番の報告に入ります。(1)一関市議会定例会第98回9月通常会議一般質問の状況につきまして事務局から報告願います。

教育部長。

○教育部長 9月議会につきましては8月の下旬から始まりまして、明日最終日を迎える予定となっております。一般質問につきましては9月1日から9月5日までの3日間行われました。教育委員会に関連する質問は7人の委員から質問通告がありました。今回はそのうち3人の議員から不登校に関する質問が出されたというような状況でございます。

その主な質問と答弁の概要についてご紹介させていただきます。

(説明)

○教育長 それでは、ただいまの議会での一般質問につきまして、質問がありましたらよろしく願います。

千葉委員。

○千葉委員 3点ほど教えてください。まず、一般質問というものは答弁してしまった後に、再質問とか関連質問というのはないものなのかどうなのかというのが1点目。2点目、千葉委員の質問の中で、汚染土壌の埋設箇所についてということで、市内にある学校の施設にはほとんどの埋設箇所はあるのかどうか。それからもう一つ、もし工事等で掘り起こしをしなければならないときの可能な期間というのは何年ぐらいなのか教えてください。

○教育長 教育部長。

○教育部長 まず再質問についてですけれども、一般質問は大体1人40分から60分というような時間の指定がございまして、その時間の中で最初の答弁に対する再質問というのは可能で、何回かやりとりをしているところでございます。

埋設箇所数についてですが、汚染土壌を埋設処理している学校は小学校が22校、そして中学校が15校、あとは閉校した学校施設が17か所というような状況で、ほぼ学校には埋設している状況でございます。

あとは掘り起こすということについてですが、埋設まではしたのですけれども、そこから今後どのように処理をしたらいいかということ、国のほうに問いかけているのですけれども、なかなか今後どうしていくかという基準が示されていない状況で、毎年要望しているのですけれども、それが示されていないので、そのまま何も手をつけられないという状況になっております。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

佐藤委員。

○佐藤委員 カウンセリングに関する質問がありましたが、専門のスクールカウンセラーが各校に配置されているとご答弁されていて、これを拝見しまして、私も学生の時に一般の講義とは別にカウンセリングの研修というのが1週間ぐらいありまして、希望者20人ぐらいが受講して、カウンセリングというのはどういうもので、どういう方法でというような形で、それなりに学ぶところがあったのですけれども、家庭教育、それから実際にカウンセリングの専門家ではないのですけれども、生徒を指導する先生方等が、そういった子どもたちの心に寄り添っていくための研修的なものというのは、親など家庭の人たちも必要に応じてそういった研修、そういった学びの場があってもいいご時世かと思うのですが、そのような機会というのはあるものでしょうか。そういった機会を設けてきたことがあるか教えていただければと思います。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 まず学校の先生方については、校内の研修会等でこのスクールカウンセラーを講師にして、子どもとの関わり方について学ぶ機会は、毎年ということではなくて校内研修の中に位置づけてやっている学校はありますし、あとはカウンセラーが入っての心のサポート研修会というのを行っていきますので、子どもの授業をとおしてカウンセラーが入って、その際の助言の中で子どもとの関わりを学ぶ機会があったり、あとは教育事務所の研修の中で、そういうものを5年目の先生とか、何年目の先生という基本研修の中に位置付けたりしてやる場合もありますので、そういう機会を通じて先生方の研修はございます。

ただ保護者に対しての研修というのは、なかなか行われている実態が少ないです。例えばPTAの研修会の中で、学校の中で計画的にスマホであったり、子どもとの関わりという位置付けでは研修を企画はするのですけれども、なかなか保護者の出席率はよくないといった状況もあって、なかなか保護者への関わり方、研修という部分については、学校が企画してもなかなか進まないというのが現状のように思います。

○教育長 そのほか、何かありますでしょうか。

桂島委員。

○桂島委員 佐藤敬一郎議員のスクールカウンセラーについてですが、実際スクールカウンセラーの利用率というのは、各学校によって違うと思うのですけれども、何件とかそういった大体の件数については、結構な利用があるのでしょうか。よく中学校のほうからのお知らせで、スクールカウンセリングが何日にありますのでご希望の方は担任のほうに申し出て下さいというお便りはいただくのですけれども、今のところ利用したことはないの

すが実際はどうかのかなと思ひまして、よろしくお願ひします。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 詳しい数字はここには持ち合わせておりませんが、スクールカウンセラーが入る学校については特に中学校については、大きな学校だと毎週入っている学校もありますし、2週間に1回入っている学校もあります。大きな学校は大体年間32回の訪問、小さな学校だと16回という形で、訪問回数には違いがあります。学校によって定期的に継続的にカウンセリングを毎週受ける子どもとか、あとは学校の中でいじめとか友達の関わりでちょっと不安定な子どもについて行っている場合もありますが、あくまでも学校のほうで子どもたちに勝手にカウンセリングさせることはないのです、気になることがあったときには当然保護者に了解を得てカウンセリングしておりますし、あとは保護者のほうからも、子どものことで悩んでいる部分については、カウンセリング相談がありますし、あとは子どもだけではなくて、保護者の子どもへの関わりで悩んでいる場合についても受け付けながらやっているとありますが、保護者からの希望という部分についてはあまり多くはなく、どちらかという、学校の中で色々なトラブルがあつて、気になる子どもがあつたときに保護者のほうに、ちょっとカウンセリングを受けてみませんかという声をかけるほうが、実際には多いように聞いています。

○教育長 今の事についてですが、特に子どもたちに一律にカウンセリングをやるというのは特に報告は入っていないですね。

学校教育課長。

○学校教育課長 小さな学校では、小学校などでは年に何回か定期的に訪問するのですが、小さな学校だと、特にそのカウンセリングをしたいという、要望がない場合もあります。その時には、全部の子どもたちにカウンセラーの先生がちょっとずつお話をするという機会を設けている学校もあります。学校規模によって特に必要がないときには学校に訪問してくるカウンセラーさんをただ1日何もしないのはもったいないので、そういう形で子どもと接触する機会を設けたりすることはあります。

○教育長 そのほかいかがでしょうか。

桂島委員。

○桂島委員 資料の4ページの上から2番目にオンライン学習ができないかとありまして、今それに向けて研究していますという答弁なのですが、今回コロナなどで結構長い期間休むということが、皆さん誰がなってもおかしくないという状況だったのですけれども、あとこれからインフルエンザも今年流行るような話もあつたりするので、もちろん体調が悪いときは熱を出しながら授業を聞いてということはないと思うのですけれども、落ち着いた状態であれば、オンラインの学習で少しでも学校の授業に遅れないようにということを取

り入れていくのは有効なのかなと思っています。学年が上がれば上がるほど授業内容が複雑になっていくのでプリントとかだけでは補いきれないところもあると思います。あとは不登校のお子さんだと、みんなと一緒にの教室では難しいけれど、いつもいる家であればオンラインで授業を受けることができる子もいるのではないかと思います。息子の高校でもコロナなどで長期間休んだお子さんがいたようなのですが、オンラインで授業を受けたことが実際にあったようなので、本人も授業を受けたいけど行けないしということで、結構軽症な子だとコロナに罹っても普通に運動したりできるらしいので、そういうことを考えるとオンラインというのは有効なのかなと思うので、是非そういうことも前向きに検討していただけたらなというお願いです。

○教育長 現状も含めて説明をお願いします。

学校教育課長。

○学校教育課長 オンラインの授業については、今やられているのは、この答弁の要旨にもあったように、授業の様子を生配信するということについては、いくつかの学校でやっているところもあります。実際にコロナの濃厚接触者になって5日間休んでいる子どもに黒板の脇にカメラとタブレットを置いて、黒板のほうを向けて先生の授業を生配信するということは実際にやられていますし、あとはオンラインで繋いで家での様子を聞くということも実際に行われています。あとは教室にカメラを置いて、別室に教室の授業の様子を映して、別室で学ぶということも行われています。

ただオンライン授業ということで、不登校になった子ども1人とか何人かに対して、先生がその子用に授業をするという部分については、現実的にこの一関市の小中学校では先生の持ち時間数があって、空き時間数がほとんどない状態なので、実際にその時間はまわらないということと、今働き方改革などもあって、なかなかそのための教材研究に時間が取れないので、現実的にはもう少し人が配置になって余裕が出てくるとそういうことにも時間を割けるかなというところがあります。ただ、実際に家にいる子どもたちが学校の様子を見て、今何をやっているかというのを知る手段であり、あるいは先生の話や授業を聞きながら自分で教科書を開いてやるという部分については少しずつ始めている学校が出ていますので、そういう実態を他の学校にも紹介しながら、過度な負担にならないように、有効に活用してやればよいなということで、今後ともできることを研究していければというように思っています。

○教育長 そのほかよろしいですか。

千葉委員。

○千葉委員 関連で、オンライン授業については録画できるのですか。

○学校教育課長 私も詳しくないのですが、実際には授業を録画して流すということも、

技術的には可能なのではないかなと思います。

○千葉委員 そうすると仮に、そのオンライン授業の内容を校長も見る事ができるし、教育委員会も見ることができるということになれば、先生方の中には嫌がる先生も出てくるのではないかなと思うのですがどうなのでしょう。

○教育長 学校教育課長。

○学校教育課長 なかなか録画するとなると、授業の中で言い間違えてしまったことを言い直せないのが、現実的には録画をして見られるというのは非常に先生方にとってはプレッシャーとか負担にはなるのかなというようには思います。ただ、色々な可能性があるのです。そういう技術的なことも含めて色々試せばいいなというようには思います。

○教育長 私からもですが、さっき出た放射能被害対策の件で、学校の土壌の件ですが、実際には学校のどのあたりにどういう感じで埋設されているのか、イメージをお話いただければと思います。それからもし資料があればですが、確かセシウムだったと思いますが、これは半減期が何か2種類あって、片方は短くて片方は結構長いけれども、あれが半減期で半分になっていくと、どんどん減衰していく状況ですが、現在のところは、各学校ではいわゆる国の基準値から大幅に下回っている、全て下回っているというように確認しているのかどうか、そこだけ説明をお願いします。

教育部長。

○教育部長 埋めた場所については校庭の隅っこであったり、あとは駐車場の敷地であったりといったところに埋設していて、事故以来毎年、年度初めに測定をしているのですけれども、国の放射線レベルの基準というのは0.23マイクロシーベルト以下であれば、まず大丈夫だというような基準になりまして、ここ数年はどこの箇所においても、0.00幾らというような、かなり低い数値になっておりますので、表面上は放射能の影響は全くない状況です。ただ掘り返せば、まだ中にはあるかなと思うのですけれども、表面上は今は安全な環境になっているという状況でございます。

○教育長 あと私から追加でお話ししますと、不登校のことについて今回3人から、時間的にすると教育関係の質問の半分は不登校関係だったのです。先に部長からお話ありましたように小学校48人、中学校128人ですから、合計176人の状況です。

これは一関だけではなくて、全国も岩手県も平成28年、中学校は平成30年度からですが、毎年更新して増大の一方なのです。不登校の場合、例えば回復するのと、新しく不登校になる子が同じ数であれば、不登校数は変わらないのですが、回復するのも多くて、新規が少なければ減っていくのです。減る要素は卒業すると回復するの2種類です。それに対して新規がバランスよくあると不登校数は変わらないのですが、現在は新規が多い状態です。新しく不登校になる子が非常に多い状態です。回復は大体年にもよりますが、

前の年不登校で次の年は休みが30日以内に収まった、あるいはすっかり回復したというのを含めると、15%ぐらい、多いときだと25%ぐらいいきますけれど、そのぐらいの回復率です。新規がやたらと多いものですから、どうしても数が増えてきているというそういう現状があります。ですから学校には新規を出さないというのは非常に大きな大事な部分なので、新規を出さないためには学校が子どもたちにとってある程度満足感があって、楽しい学校作りを是非してほしいというような部分は話しているところですが、これは非常に根気があるし長い目で見えていかなくてはいけない部分だということでもあります。不登校については、これだけ多いと文部科学省も、不登校について、目先の回復だけを目指さないという方針をここ数年出しておりまして、その子がそのときは不登校でも、将来社会的に自立していけるようになるということを目指してやってくれということでも通知が来ておりました。私達もそういう視点は必要なのかなというように思います。あと実際に不登校になっている子どもたちに対しては、例えばさっき言ったICTなどで少しでも担任と関わりが持てて、それがきっかけになる子どももいるかもしれませんので、そういった部分で何がきっかけになるかわからないのでそういうメニューをたくさん学校が作るということが大事なのかなというように思っておりました。付け加えてお話ししておきます。

それではこの一般質問の状況についてはよろしいですか。

以上で(1)を終わります。

報告(2) 行事報告及び行事予定について

○教育長 報告の(2)に入ります。行事報告及び行事予定について、私のほうから行事報告についてお話しいたします。前回の教育委員会議は8月24日でありましたので、それ以降のことについてお話しします。

25日、最先端科学体験研修の解団式がありました。中学校3年生34名が参加しましたが、グループディスカッションも、全体発表も聞きましたが、非常に素晴らしい発表の状況で、とても話ができる子どもたちが多かったところで非常に印象的でありました。将来の自分の生き方、あとは地域に対してどういう貢献ができるかということはずいぶん話していただきました。

23週、30日、市議会の本会議が始まりました。

同じ日に、岩手県民体育大会及び障がい者スポーツ大会の一関選手団の結果報告兼解団式がありました。私も参加させていただきましたが、水泳が団体で1位だったり、ソフトボールの年代別でも男子で1位が複数あったり、あとはクレイ射撃についても11連覇したとかというそういう話がありました。非常に頑張っていたいただいたなというように思っております。

24週、9月7日、学校給食センターの賄い費についての協議とありまして、ちょっとお話しさせていただきますが、現在の物価高の状況ですが大体今4%ぐらい昨年度と比べて物価高の状況で、非常に給食の食材費の確保が難しくなっております。ですから、その中でこれまでは食材費については、保護者負担という考え方をとっていましたので、それを保護者負担ではない形で市の一般財源を投入するとなると補正予算を組むとか、あるいは予備費を投入するとかになるわけで、その辺が今盛んに内部的な協議がされているところです。

あるいは国からコロナの交付金等があればそれを充当できないかということで、色々と考えて検討しているところであります。

8日、大東地域中学校の統合推進委員会がありました。各専門部会の報告が主でありましたが、校名は大東中学校に決定しておりますが、校歌についても森山直太朗、御徒町凧の作曲作詞の「こころ」というのに決まりまして、これを聞かせていただきましたが、現在編曲については柴田さんという方に依頼中ではありますが、非常に子どもたちにフィットするような、昔の校歌のイメージを持っている私にはかなり傾向が違ったなという感じを受けますが、子どもたちの中では非常に合唱もしやすくなるのではないかなという感じを受けました。校旗についても決定いたしましたし、制服についても運動着等も含めまして、決定いたしました。制服についてはジェンダーに配慮して、3種類の制服を採用するようであります。ですから女子生徒でもスカートでなくてズボンも履けるという状態は選択できるようにしてあります。

それから通学につきましては、大原、興田分については全て市営バスで運行するという形で決定いたしました。

9月10日、いちのせきスーパー I Tキッズ育成プロジェクトの閉講式がありました。小学校5、6年、中学校1年の35名が今年度参加していただきまして、タイピング、プログラミングとか表計算、画像処理等を合計8回にわたって研修を重ねたところであります。

今回このスーパー I Tキッズの育成プロジェクトには、ICT指導員だけではなくて、市内の校長先生方も3名ほど参加していただきまして、一関高専の教授も参加していただきました。それから高専の学生とか一関工業の生徒にも手伝っていただきました。非常に広がりという部分では大きくなってきたかなというように感じています。

11日、室根小学校の開校・落成式がありました。委員さん方にも出席いただき大変ありがとうございました。記念式典の後の祝賀行事の中でピアニストの西村さんが来て、見事な演奏を披露していただきました。そのときに子どもたちにプレゼントで大きなクワガタをプレゼントしましたが、その後のこと一言だけ言っておきますと、大変学校で喜ばれているようであります。クワガタもきちんと管理すれば1年以上生きるそうなので、非

常に子どもたちからは好評のようであります。そういったこともありましたので報告しておきます。学校のほうは順調に推移しております。

15日、市長副市長協議で、全国文化的景観の地区連絡協議会関係とありますが、これは前にもお話ししたことがあったかもしれませんが、全国60か所ぐらいの市町村で結成している協議会ではありますが、現在一関市長が会長をやっております。その関係で今年度10月末に、葛飾区のほうで総会大会が予定されております。そういうのを主催するのが、今回は一関だということになっておりまして、次年度まで一関が会長になっておりますので、次年度どこでやるかについても現在検討中であります。

行事報告については以上です。

何かご質問ありますでしょうか。

それでは行事予定につきましてお願いします。教育総務課長。

○教育総務課長（説明）

○教育長 それでは次回の定例会は10月25日の予定ですがいかがでしょうか。

よろしいですか。では予定に入れていただければと思います。

それでは2番の報告は以上とします。

その他(1) 令和4年度学校教育行政の重点について（キャリア教育）

○教育長 3番のその他に入ります。(1)令和4年度学校教育行政の重点について、キャリア教育について紹介願います。

学校教育課長。

○学校教育課長（説明）

○教育長 何かありますか。

それでは(1)を終わります。

(2)のその他について、コロナの状況について説明願います。

学校教育課長。

○学校教育課長（説明）

○教育長 お聞きしたいことはありますか。

下降傾向という状況であります。油断はできませんが、そういう傾向が続いています。

それでは皆さん方から何かありますか。

伊藤委員。

○伊藤委員 デジタル教育推進で心配される課題ということで、例えば千葉県の南房総市で小・中学校の情報システムがサイバー攻撃を受けて、児童生徒約2,000人の成績表が閲覧できなくなってしまったということでした。これに関しては身代金要求型コンピュータ

ウイルスというのに感染した状況で、成績表などの個人情報暗号化されてしまって、ハッカー集団は金銭を支払わないと成績表などの情報をインターネットに流出させるという脅迫をしているというようなことが実際起こっているわけです。私がすごく心配なのは、これはロシアが拠点となったハッカー集団だそうなのですからけれども、それによる攻撃ということのようです。例えば本当に3年分の成績表とか出欠、氏名、住所、保護者の連絡先とか身長体重等の情報が、全く閲覧できなくなってしまって、それぞれの小学校、中学校の先生方が大変な思いをして作成し直しているというような状況が実際に起こっている中において、本市における情報システムへのサイバー攻撃に対し、情報セキュリティは一体どうなのでしょう。仮にハッカーによって、ウイルスに感染させられた場合の対応はどうなのでしょう。この2点を少し気になったのでお伺いします。

○教育長 教育部長。

○教育部長 学校の機密データ、個人データ、学校の校務システム自体は、ICSに委託をして、サーバー自体もICSの会社内であって、そこからネットワークで利用していますので、ICSの技術経験でもって最新のセキュリティで対応していただいているのですが、ただそういった最新のハッカーの技術というもので、100%大丈夫かとは言い切れない状況なのですから、ただ市独自で管理しているわけではなく、専門的な業者に管理してもらっているという状況です。あとは万が一そういった漏れたときのために、昨年度セキュリティポリシーという、1人1台タブレットの配備に伴ってセキュリティ対策のルール作りというものもしましたので、何か起こったときにはこういう順番で対応しましょうというような、そういったルール作りもしておりますので、万が一何かあったときには、それに基づいて対応するような準備はできているというような状況です。

○教育長 私も今初めて聞きましたけども、非常に今後、全国でそういった事案がまた出てくるようであれば、さらにそういったことについては検討する必要があるかもしれません。全体的な課題だと思います。

そのほかよろしいでしょうか。

それでは、以上で第239回一関市教育委員会定例会を修了します。